

◇第20回 世界LPガスフォーラム(ケープタウン)の概要

1)開催期間：10月24日 8:30～10月26日16:30 の3日間

2)開催地：南アフリカ共和国ケープタウン(Cape Town International Convention Centre)

3)主催者：World LP Gas Communication SARL, for World LP Gas Association (WLPGA)

4)参加者：公表登録者名簿では、参加国=52か国、登録者数=700余名

当センターからは、理事会に加藤理事長、フォーラムに調査研究部 西浦総括主任研究員が出席

5)概要：

「暮らしへの補給」(fuelling life)をテーマに南アフリカで開催。

アフリカ大陸には多くの途上国があり、エネルギーに関しても多くの課題を抱えている。これらの課題の解決方法を人々の環境を改善するという切り口で探り、LPGをいかに活かし、教育を含む生活水準の向上に結びつけるかについて議論した。

同協会事務局によれば、今回の講演会参加者はアフリカ諸国、欧州、米州、中東、アジアから約50ヶ国、総勢420名以上にのぼり、60近い講演とセッション毎の意見交換が行われた。展示会も隣接する会場で開催され日本企業も含め70以上のブースで多数の商談が行われていた。見学者も含め総参加者は1000人以上と思われる。多くの米国企業が参加した昨年のシカゴ大会の参加者数までは届かなかったが、展示会場のブースは全て埋まり、協賛総額も当初の予定以上と事務局はコメントしていた。

会場はシェラトンホテルに隣接する最新のコンベンションセンターの大ホールを使用し、施設規模は東京国際フォーラム以上であった。当日はTVカメラを駆使し、舞台の両面には、スクリーンが備えられ視覚的にも豪華な講演会を演出していた。しかしながら、講演会の最終日には聴衆は会場収用人員の4割弱程度まで減少していた。

開会の挨拶や3日間それぞれの基調講演者の陣容は、ケープタウン副市長、国連開発計画理事、世界銀行等の幹部、特に各途上国LPガス促進組織を含む公的機関の要人も多数を占め、重要な国際会議であることを印象づけていた。10月末に来日したソンジカ南ア鉱業・エネルギー大臣、南ア副大統領、そして最終日にはナイジェリア資源大臣も参加した。加えて Shell, BP, Total, Chevron, Reliance などの多国籍企業の役員・上級管理職も議長としてセッション形式のパネリストの講演を巧みにリードし、聴衆からの質疑応答を手際よく纏めていた。

今回のフォーラムの主眼はアフリカ大陸のエネルギー事情の改善・発展、LPガスの優位性をどのような手法で導入していくかであり、特に初日のプログラムでは終日アフリカに焦点があてられていた。

3日間の概要は以下の通りである。



世界LPガス協会 ケープタウンフォーラム

【第1日目】南ア大臣、国連、世界銀行、各国協会幹部、多国籍企業・国営石油会社上級職

1. 世界人口の半分近くの30億の人々が生活に必要なエネルギーを薪や牛糞等(バイオマス)に依存している。
2. 薪やバイオマスでの調理・暖房による煙が原因で世界で毎年39万人が犠牲になっている。
3. 薪やバイオマスの調達には女性・子供がその役目を果たし、調達に要する時間(一説には平均5km 以上の歩行を伴う)と重い荷を運ぶため弱者の健康阻害要因となるばかりでなく子供の教育の時間も奪われている。
4. 配管敷設を伴う天然ガスや二酸化炭素排出量など環境対応に劣る灯油などに比べると、LPGは分散型で利便性が高く、途上国には最善のエネルギー源と考えられる。
5. アフリカ大陸で世界の10%弱のLPGが生産されるが、北部西部に集中しサハラ以南地域には生産国は少ない。
6. アフリカ大陸では電気は人口の10%程度の普及率しかない。
7. アフリカ諸国においてLPGを普及させる共通の条件として以下の事項がある。
 - * 企業間取引の透明性の確立
 - * 国内外関係者から見て明瞭な関係法令の整備
 - * 市場参入の容易さと市場価格の透明性
 - * 市場参入(海外投資企業)時の受入れ国の支持
 - * 基礎的物流網整備時の受入れ国の支持
8. アフリカは海外企業の投資を歓迎しており特に南ア大臣は今が最適の時機と強調していた。

【第2日目】P&G 社、SHV 社(蘭の国際的LPG中流事業者)、Geo ガス社(スイス)、Argus 社

1. 当センターと同様の内容の国際需給見通しが中心であった。留意点は以下の通り。
 - * 原油高でLPGも最高値、高価格が途上国の消費を抑制している
 - * 原油高で経済性が高まり中東の産油国の原油・LNG開発が促進されLPGの生産は拡大
 - * LPG市場の現状は供給先導型市場である
 - * 中国・インドの輸入需要は少なくともしばらくは横ばい、中長期的に国際市場への影響は必至
 - * 2007年のLPGの供給は拡大したが、規模は予想以下に留まりそう
 - * 家庭業務用市場は価格上昇のため、増加が抑制され、余剰品は石油化学需要に向かう
 - * 石油化学需要は価格に敏感な市場でありかつ原料転換、LPG消費の増減が容易
 - * LPG価格は原油価格に影響を受けるが供給余剰により軟化傾向の可能性あり
 - * 生産国の開発速度は鉄鋼等資材の調達遅延もあり、計画より遅れる可能性あり
2. 2007年は一見すると
 - * 80ドル原油高時代、LPG価格は700ドル(いずれも講演時の市況)、投資資金流入により価格高騰、LPG生産拡大幅は予想量以下、LPGの石化需要増加、海上貿易量の記録的な増加、LPGは過度期を迎えている
 - * 「過度期」とは:2年間の超高値が末端需要を極度に抑制し始めた事。投資ファンドの資源価格への介入と石化需要拡大が小売り産業の構造を弱体化させた。高価格で取引額が高騰しリスク管理は重要性を増す
3. 通常の時況分析や各国際市場の価格情報提供を得てとするアーガス社も環境を意識した講演であった
 - * 気候変動とLPGの特性(気候変動に関する条約の解説)
 - * 世界の気温の上昇と二酸化炭素排出等の詳細が掲載された科学誌の紹介
 - * モントリオール・京都議定書内容の紹介
 - * LPGの環境対応性と各国際機関の評価

*「過度期の燃料」として最適：化石燃料とクリーンエネルギー・原油と天然ガス両者から生産可能・温室効果ガスの排出抑制効果・ハイブリット燃料として効果ガスを抑制可能

【第3日目】インドリアンス社製油所部門社長、米国プロパン教育協会会長、ブラジルウルトラガス上級管理職、欧州・豪州・印度・ナイジェリアLPG協会、ナイジェリア経産相・韓国LPガス協会会長

1. LPG利用の途上国での現状分析・普及の意義
2. インド最大唯一の民間財閥系会社のLPG政策とインド市場
3. 成熟市場での新規LPG関連利用法と潜在需要の喚起(例：米国・先進欧州諸国のバーベキュー燃料需要拡大の潜在性・太陽光とのハイブリット・GHP)
* 日本の技術関連事業の発表をWLPGA事務局から要請されていたが該当講演者はなかった。
4. 世界各国のLPG普及・啓蒙政策の成功例・失敗例
5. 各国オートガスの普及政策(インド、オートガス先進国である韓国の成功事例)
6. 来年の開催国である韓国(ソウルで9月実施)の紹介と関係代表者の講演



インド リライアンス社
製油所事業担当社長の基調講演

6) 所感：

世界LPガス協会の主眼はLPガスの特性を活かした家庭業務用需要を中心とした普及であり、講演の多くは下流事業者・所管大臣や政府高官の政策・国連や世界銀行の高級管理職が中心となる。ただし、事務局責任者のコメントとしては、今後は主要生産国(アラムコ、KPC、ソナトラック等)の動静や政策に関する意見交換も積極的に取り入れたいとしていた。実際主要生産国も同協会のメンバーであるが参加する会社はなく、西アフリカの資源輸出国ナイジェリア(LNGとその随伴によるLPGは年間170万ト)も国内の消費は僅か6万ト程度で、政情の安定と政策・インフラ確立を急務としている。ナイジェリア国内の事業者や担当大臣が積極的に参加していたが、同国の国際貿易政策の説明はなかった。

フォーラムに先駆け22日には同会場で、世界LPガス協会の理事会(世界各国から9名の理事で構成)が開催された。席上、メンバーである武内前当センター理事長が退任し、新たに他国の候補者の中から当センターの加藤理事長が理事候補に選任され、この後開かれた同協会総会にて満場一致で承認された。

また、世界LPガス協会の定期会議(理事会:ボードミーティング、産業委員会、技術委員会、オートガス委員会)が国際セミナーの時期に合わせて、来年2月25-27日間、第一ホテル東京にて開催されることが決定した。

対象の理事や委員である各国のメンバー20名前後は国際セミナーに引き続き参加することが見込まれる。

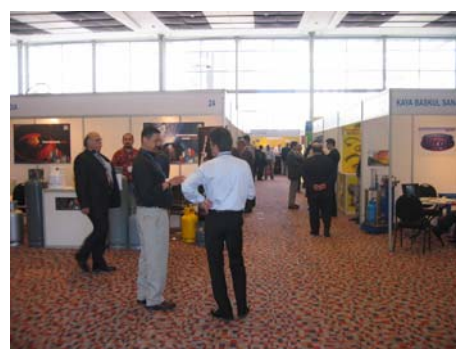
来年度(2008年)以降のWLPGA総会

- | | | | |
|--------|---------------|-----------|----------------------|
| 第21回総会 | 2008年9月24~26日 | 韓国ソウル | 世界技術会議第二回(GTC2)を併催予定 |
| 第22回総会 | 2009年 | ブラジルサンパウロ | を予定 |

○展示会関係

- 1)開催期間：10月24日~26日の3日間
(各日:9:30~18:00)
- 2)出展者・特徴：全体では72ブース

盛況な展示会風景



韓国LPG協会のブースでは世界最大の自動車用需要国を積極的にアピールし、2008度の韓国総会への参加勧誘のPRを行い、同国の観光案内用の豪華パンフレットも配布していたのが印象的であった。